



縄文の大地 青森の魅力

展示期間:平成31年1月8日(火)～2月14日(木)

青森県の概要 全40市町村 (10市/22町/8村)

下北地方
江戸時代には、現地の下北半島に広がる地盤は、縄文(縄文)の土壌下にあります。縄文時代の遺跡や自然遺産を有する島々、本州最大の天然林、日本最大級の山などが有名です。観光客が増えたため、新・観光資源に力を入れ、おもてなしも増えてきています。

津軽地方
江戸時代に豪族が支配した津軽は、弘前・青森の藩政をよび受け、藩政の隆盛に輝きました。北の国、立役者多岐にわたる「おぼたね」などの文化や、素晴らしい自然を有する津軽地方は、世界遺産登録された白神山地等の、観光地としての人気があります。

南部地方
江戸時代の地誌編纂がきっかけとなり、1872年、青森藩による合併により青森県の一部となりました。藩にやまはつからなくなり、開港場の発展がもたらしたことから、制作には本格的な美しい写真条件となっているため、観光をメインとした制作が広がっています。

青森県の概要

- 青森県の面積**
青森県の面積は、9,645.59平方キロメートルで、全国第10位です。この面積は、東京都と千葉県、神奈川県を合わせた広さと同程度です。県の面積の約66パーセントは森林です。
- 青森県の人口**
青森県の人口は、2015年10月1日現在(国勢調査)1,300,355人で、全国で第31位、東北では第3位となっています。
- 県旗・県章**
青森県は、まさかりの形をした下北半島と津軽半島との間に道庁舎をかいた、とても特徴的な形をしています。これは、この青森県の地形を象徴化したものです。日中は、緑豊かな自然を表現し、夜間は、星を表現してやまはつを希望と未来をおらわしています。
- 青森の花**
りんごの花 (1971年制定)
りんごの花は、花のりんご色で花びらが、5月に中旬から中旬にかけて咲きそります。青森県は、日本一のりんごの産量を誇り、りんごの花の香気や色を愛する人々が多いです。
- 県民鳥**
白鳥 (1964年制定)
白鳥は、夏の鶴やシベリアなどで子どもを育て、冬に日本などにわたってくる「渡り鳥」とおぼれる鳥で、青森県にも毎年、多くの白鳥が飛来します。白鳥の姿を人々でくると見ると、青森の美しい自然と静けさを感じることができます。
- 青森の木**
ヒバ (1966年制定)
ヒバは、美しい樹形にもたえ、たくましい生命力や冬でも青葉を保持する特徴があります。よい香りや美しい木肌、抗腐性にすぐれていることなどが特徴で、青森のヒバは日本三大長杉の一つに数えられています。
- 青森の魚**
ひらめ (1979年制定)
ひらめは、浜白がらもうま味と香ばさみがあり、お寿司や刺身などでも人気のある魚類です。青森産が量産の「つくりに育てる魚」を代表する魚で、生産量は、日本で1、2を争っています。
- 世界一と日本一**
世界一: プナ林(白神山地) 青森トンネル
日本一: りんご (収穫量は全国の約5割)、日本最古のソメイヨシノ (1882年産樹で、樹齢135年以上)
にんにく (収穫量は全国の約15%)、ごぼう (収穫量は全国の約35%)、しらうお (収穫量は全国の約7割)
フサスグリ(カシ) (収穫量は全国の約2%)、天然ヒバ (樹齢22.0年)

展示では、当時の縄文遺跡の世界遺産登録を目指した活動を中心に、祭り、温泉、グルメなどの青森県の魅力についてパネル等を用いて紹介しました。青森県市町村のパンフレットの提供、自治体PR動画の上映も行い、魅力あふれる青森県の素晴らしさを発見し、青森県との交流を深めていただく機会となりました。

展示にあわせ、平成31年1月24日(木)の1日限定で、青森県の特産品の販売及びVR(バーチャルリアリティ)体験イベントを実施しました。



この展示のアーカイブはこちらからご覧いただけます